



2018年10月14日(日)10:00-11:30

## 防災教育交流フォーラム

～今、防災教育に足りないものは何か～

### ぼうさいこくたい 2018

## 実施報告書

主 催

一般社団法人防災教育普及協会

協 力

防災教育チャレンジプラン実行委員会

ぼうさい甲子園

国立研究開発法人防災科学技術研究所

2018年10月

# 1. 開催趣旨

---

地震・津波、火山、風水害などに備え、防災教育の一層の推進が求められています。しかし学校・組織・地域では、なかなか進みません。そこで、これまでの防災教育を振り返り、今、防災教育に足りないものは何かを様々な視点から話題提供します。そして、問題解決の方法・戦略をディスカッションします。

プログラム：趣旨説明、話題提供（今、防災教育に何が足りないのか）、ディスカッション（解決策は何か）

出演者（順不同・敬称略）：河田恵昭（関西大学特命教授）、林春男（防災科学技術研究所理事長）、平田直（東京大学教授）、諏訪清二（防災学習アドバイザー・コラボレーター）、鍵屋一（跡見学園女子大学教授）、佐藤公治（南三陸町立歌津中学校主幹教諭）、澤野次郎（災害救援ボランティア推進委員会委員長）、国崎信江（株式会社危機管理教育研究所代表）、中川和之（株式会社時事通信社解説委員）、木村玲欧（兵庫県立大学准教授）

# 2. イベント概要

---

名称：防災教育交流フォーラム～今、防災教育に足りないものは何か～  
日時：2018年10月14日(日) 10:00～11:30  
会場：東京ビッグサイト会議棟7階 国際会議場  
内容：「防災教育に足りないもの」に関する話題提供、ディスカッション  
参加費：無料  
申込：不要  
主催：一般社団法人防災教育普及協会  
協力：防災教育チャレンジプラン実行委員会、ぼうさい甲子園  
国立研究開発法人防災科学技術研究所

(イベントチラシ)

最新の防災教育情報をどのように入手すればよいか？  
防災実践者たちの「つながり」をどう作っていくか？  
普及・啓発の方法と課題は何か？  
マスコミはどう扱えばよいのか？  
現場教員はどう考えるのか？  
子どもとの関わり方は？



ぼうさいこくたい2018セッション『防災教育交流フォーラム』

# 今、防災教育に “足りないもの”は何か？

～ 多様な視点で解決策を探る ～

<プログラム>

- 趣旨説明 (司会進行)
- 話題提供 (出演者「今、何が足りないのか」)
- ディスカッション  
(モデレーター・出演者「解決策は何か」)

10月14日(日)

10時～11時30分  
東京ビッグサイト  
会議棟7階 国際会議場  
(定員:1000名)  
※事前申込不要

## モデレーター

河田恵昭 関西大学社会安全学部 特別任命教授  
林 春男 国立研究開発法人 防災科学技術研究所 理事長

## 出演者

平田 直 東京大学地震研究所 教授  
諏訪清二 防災学習アドバイザー・コラボレーター  
鍵屋 一 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 教授  
佐藤公治 南三陸町立歌津中学校 主幹教諭  
澤野次郎 災害救援ボランティア推進委員会 委員長  
国崎信江 株式会社危機管理教育研究所 代表  
中川和之 株式会社時事通信社 解説委員

## 司会進行

木村玲欧 兵庫県立大学環境人間学部 准教授 ※順不同

## 出演者

主催：一般社団法人防災教育普及協会  
協力：防災教育チャレンジプラン実行委員会、ぼうさい甲子園、  
国立研究開発法人防災科学技術研究所  
問い合わせ：一般社団法人防災教育普及協会 TEL.03-6822-9903



一般社団法人  
防災教育普及協会  
www.bousai-edu.jp

## 2.1 イベントの成果

「防災教育に足りないもの」をテーマとして、出演者・モデレーターからそれぞれの実践、研究等の視点から話題提供やディスカッションを行うことにより、参加者とともにも今後の防災教育について考える機会となりました。学校・教育関係者、防災ボランティア、大学生など約 200 名の方にご参加いただき、参加者には「防災教育実践に関するアンケート調査」を実施しました。アンケートからは防災教育実践者に関わる課題が浮き彫りになり、ディスカッションの内容も踏まえ、課題解決に向けて具体的な成果を得ることができました。

## 2.2 イベントの内容

### (1) 趣旨説明

司会の木村玲欧・兵庫県立大学環境人間学部教授より、地震・津波、火山、風水害などに備え防災教育の一層の推進が求められている一方で、学校・組織・地域ではなかなか進まないなど課題があること、様々な立場で防災教育に携わっている方々に話題提供やディスカッションを行っていただき、問題解決の方法・戦略を議論することについて説明がありました。

### (2) 出演者による話題提供

モデレーターの林春男・国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長より、平田直・東京大学地震研究所教授（本協会会長）が紹介された後、順に各出演者よりそれぞれの立場から防災教育の現状と課題についての話題提供が行われました。

### (3) モデレーターと出演者によるディスカッション

モデレーターの河田恵昭・関西大学社会安全学部特別任命教授の進行で、各出演者がそれぞれの立場からの課題提示や、これから特に重要にしたいこと、取り組むことなどについて発表を行い、今後の防災教育について議論が行われました。まとめとして「“生きる力”を身に付けるためにも、自分自身や周囲の人、地域・先人の教訓などから学んでいくことが必要である」、「防災教育を“こうあるべき”だと言うのではなく、みんなが自分の問題として考え、実行していくこと、それを瞬間的ではなく継続できるような世界を、みんなで力を合わせてつくっていくことが必要」といったコメントがありました。

### 3. イベントのようす



木村玲欧（兵庫県立大学准教授）氏による開会挨拶、趣旨説明、登壇者紹介



平田直（東京大学教授、本協会会長）による報告



佐藤公治（南三陸町立歌津中学校主幹教諭）氏による報告



澤野次郎（災害救援ボランティア推進委員会委員長、本協会常務理事）による報告



諏訪清二（防災学習アドバイザー・コラボレーター）氏による報告



中川和之（株式会社時事通信社解説委員）氏による報告



国崎信江（株式会社危機管理教育研究所代表）氏による報告



鍵屋一（跡見学園女子大学教授）氏による報告



パネルディスカッションのようす



モデレーターの河田恵昭（関西大学特命教授）氏



モデレーターの林春男（防災科学技術研究所理事長）氏

### 3.1 防災教育実践に関するアンケート調査

木村玲欧・兵庫県立大学環境人間学部教授のご協力により、防災教育の実践に関するアンケート調査を行い、アンケートを回収しました。アンケート項目及び調査結果については、本協会ホームページにて公開しています。アンケートからは、防災教育の担い手不足や、実践が特定の個人に依存しがちであるといった具体的な課題が見えてきました。

<http://www.bousai-edu.jp/info/bousaikyouiku-jissen-report190107/>



(参考) アンケート調査用紙

地域や学校・会社などの組織で行われている「防災教育の現状」について、みなさまのご意見を教えてください。  
アンケートは無記名であり、お答えいただいた内容も統計的に処理されますので、個人の回答内容が特定されることはありません。どうぞ素直なお気持ちをお聞かせください。

問1. あなたご自身は、**防災活動・防災教育**を行っていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 現在、活動をしている	2. 現在はしていないが、 過去、活動していた	3. 現在も過去も活動していない (児童生徒なども含む) 一問2へ
---------------	----------------------------	--------------------------------------

(「1. 現在、活動をしている」、「2. 現在はしていないが、過去、活動していた」と回答した方へ)

付問1. あなたご自身の活動の対象について、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 学校 (児童生徒)	2. 学校 (教職員・PTA等)	3. 地域 (自治体・自治会・管理組合など)
4. 会社・団体等	5. その他 ( )	

付問2. あなたが**防災活動・防災教育**に携わった(携わっている)期間は、何年から何年頃までですか。

また合計で何年くらいですか(途中で空白がある時は、その時期を抜いてお答え下さい)。

西暦 _____ 年ごろから _____ 年ごろまで	合計で約 (      ) 年
----------------------------	-----------------

問2. あなたの年齢と性別を教えてください。

年齢→	1. 10歳未満	2. 10代	3. 20代	4. 30代	5. 40代
	6. 50代	7. 60代	8. 70代	9. 80代以上	10. 答えたくない

性別→	1. 男性	2. 女性	3. 答えたくない
-----	-------	-------	-----------

問3. 今後、**防災活動・防災教育**に取り組む予定はありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. ある	2. 検討中	3. ない
-------	--------	-------

(「1. ある」、「2. 検討中」と回答された方へ)

付問1. 今後、**防災活動・防災教育**に取り組むにあたって、現在課題に感じていることについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 人 (担い手・つなぎ手)	2. 運営 (組織・体制)	3. 場 (時間や場所)	4. お金 (資金・経費)
5. ネット (知識・教材)	6. コツ (工夫)	7. その他 ( )	

裏面に続きます。

問4. 現在、地域、学校、会社などの組織で防災活動・防災教育を実践している方（もしくは過去にしたことがある方）にお尋ねします（活動したことが無い方は、本問を回答する必要はありません）。

「防災活動・防災教育の課題」としてよく言われている以下の23項目について、みなさまのご活動にどの程度あてはまっているかをお答えください。

各項目について、1「あてはまる」～4「あてはまらない」、もしくは5「わからない」から最もあてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

あなたが参加・実践する防災活動・防災教育についてお答え下さい  
(過去に行っていた方はその時の活動でお答えください)

	1 あてはまる	2 どちらかといえばあてはまる	3 どちらかといえばあてはまらない	4 あてはまらない	5 わからない
1. 防災の専門知識や最新情報を収集するようにしている	1	2	3	4	5
2. 活動する時には、プログラムや教材などを作成している	1	2	3	4	5
3. 活動した内容は、定期的に見直しをしている	1	2	3	4	5
4. 蓄積された活動は、マニュアルや報告書などでまとめている	1	2	3	4	5
5. 活動の成果を、外部に発信している	1	2	3	4	5
6. 活動している人の負担にならないように配慮している	1	2	3	4	5
7. 無理をしない範囲で <u>準備時間</u> を確保している	1	2	3	4	5
8. 無理をしない範囲で <u>活動時間</u> を確保している	1	2	3	4	5
9. 活動内容に見合った <u>活動場所</u> を確保している	1	2	3	4	5
10. 活動内容に見合った <u>活動資金</u> を確保している	1	2	3	4	5
11. 無駄のないよう工夫をしながら <u>活動資金</u> を使っている	1	2	3	4	5
12. 困った時には経験豊富な人からアドバイスを受けられる	1	2	3	4	5
13. 個人の活動ではなく「組織」として活動している	1	2	3	4	5
14. 他の団体と共同で活動することがある	1	2	3	4	5
15. 地域の中心人物(自治会長など)との連携ができています	1	2	3	4	5
16. 地域で活動している関係機関と連携ができています	1	2	3	4	5
17. 実践している活動を引き継ぐ人がいる	1	2	3	4	5
18. 引き継ぐ人の育成をしている	1	2	3	4	5
19. 活動する地域の被害想定(ハザードマップ等)を知っている	1	2	3	4	5
20. 活動する際には、自主的に動くようにしている	1	2	3	4	5
21. 無理をせず自分達ができる活動をしている	1	2	3	4	5
22. 専門家や他団体と積極的に交流するようにしている	1	2	3	4	5
23. 明るく楽しく気軽な活動になるよう工夫している	1	2	3	4	5

アンケートはこちらで終了です。ご協力ありがとうございました。



## 謝辞

---

本イベント開催にあたりご尽力いただきました、防災教育チャレンジプラン実行委員会様、ぼうさい甲子園様、国立研究開発法人防災科学技術研究所様、ご出演及びご参加いただきました皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今後とも防災教育の普及啓発にご協力賜りますよう、お願い申し上げます。

【 一般社団法人防災教育普及協会 】

〒102-0073

東京都千代田区九段北 1-15-2

九段坂パークビル 3 階

TEL.03-6822-9903

<http://www.bousai-edu.jp/>



一般社団法人  
防災教育普及協会  
[www.bousai-edu.jp](http://www.bousai-edu.jp)